

## プラスチックごみの削減について

### 【現状と課題】

- ・食品包装などのワンウェイ容器包装（1回の使用で廃棄されてしまう容器包装）の日本一人当たり廃棄量が、世界で2番目に多いと指摘されており、本市においても不必要なワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底に取り組む必要がある。
- ・昨今、マイクロプラスチックや漂着ごみなど海洋プラスチックごみの環境汚染が問題となっている中で、本市においてもプラスチックごみの減量や資源化が課題となっている。

<マイクロプラスチックとは>

マイクロプラスチックとは、5mm以下の微細なプラスチックごみ。

含有・吸着する化学物質が食物連鎖に取り込まれ、生態系に及ぼす影響が懸念される。

### 【施策の方向性】

#### ① プラスチックごみ削減と分別排出の徹底

・ワンウェイプラスチックごみが海洋汚染の原因になっていることを、広く市民に情報発信し、環境に与える影響について共通認識となるよう意識の高揚を図る。そのうえで、広報媒体による周知やイベントでの啓発活動を通じて、対策となるリデュースをはじめとする3Rの徹底、ポイ捨ての撲滅の呼びかけを行っていく。また、ワンウェイプラスチックごみの中で、ペットボトルや容器包装などのリサイクル可能なものについては、分別の徹底を図る。

・繰り返し使えるマイボトル・マイカップの利用を促進し、ペットボトルの発生抑制を図る。また、市内公共施設でマイカップ対応の給水設備や自動販売機の設置を推進していく。

・レジ袋削減に向けた取り組みとして、市民にマイバックの持参を意識付けるためにイベント等でマイバックを配布することや市内の小売事業者と協力し買物客に対する特典付与につ

いて調査検討していく。

## ② 事業者との連携・協働

ワンウェイプラスチックごみの発生を抑制するため、排出事業者と連携を図り、事業者の取り組みについて周知を行っていく。また、清掃行政協力者表彰制度等を活用し、ワンウェイプラスチックごみの減量やリサイクルに取り組んでいる事業者や販売店等を表彰の対象に加えるなど、事業者の自発的な取り組みを促進するよう働きかけていく。



市川市の資源物とごみの情報ペーパー

# じゅんかん ニュース

<第43号>

発行日：令和元年8月21日

発行：市川市環境部

生活環境整備課

☎ 047 (712) 6317

FAX 047 (712) 6308

## 3つの「R」でごみを減らそう

2019年G20大阪サミットで採択された首脳宣言の環境項目で、3R(スリーアール)による資源効率性の向上が国際的な取り組みとして挙げられました。

3Rとは、ごみになるものを減らす「リデュース」、廃棄しないで繰り返し使用する「リユース」、ごみを資源として再生利用する「リサイクル」に取り組むことで、焼却や埋め立てによる環境への影響を減らし、限りある資源を繰り返し使う社会をつくる活動です。

### REDUCE リデュース

ごみになるものを減らしましょう。

- ・必要ないものは買わない、もらわない
- ・買い物にはマイバッグを持参する



レジかご“ぴったり”タイプ

用途にあった  
マイボトル  
マイバッグで  
お洒落でエコに！



お出かけや職場でも  
マイボトル！

My Bag



自転車で揺れても  
中身が出ない巾着タイプ

### REUSE リユース

使えるものは繰り返し使しましょう。

- ・詰め替え用の製品を選ぶ
- ・リユースショップを活用する

### RECYCLE リサイクル

ごみを資源として再生利用しましょう。

- ・ごみを正しく分別する
- ・リサイクル製品を使う

ごみ分別アプリ



iPhone



Android

ペットボトルを出すときは

ペットボトルはキャップ・ラベルを外し(水で中を濯いで)、一緒にプラスチック製容器包装類の指定袋に入れてください。



### プラスチックごみによる海洋汚染が広がっています

首脳宣言では、プラスチックごみの海への流出抑制・削減も挙げています。捨てられて海に流れ込んだプラスチックごみは、砂や波にもまれて微細化(マイクロプラスチック)し、海の世界連鎖により生態系へ悪影響を及ぼすとされています。3Rで海の環境を守りましょう。



10月の3R推進月間にパネル展

令和元年9月26日～10月11日

メディアパーク市川

# 海洋プラスチックごみについて

捨てられたプラスチックごみが  
海や川へ流れる…



流出されたごみのイメージ



マイクロ  
プラスチック

紫外線や波などで砕け  
細くなる

地球環境を守るため、  
海洋プラスチックごみについて  
考えてみませんか？

歯ブラシなどの小さなものから、建設資材といった大きなものまで。  
わたしたちの生活のあらゆる場面で利用されている“プラスチック”。

手軽で耐久性に富み、安価に生産できることから、  
ビニール袋や発泡スチロールのケースなど、幅広く使われています。

そんなプラスチック製品は使い捨てされることが多く、  
きちんと処理されないまま、海や川に流出してしまい…。

既に、海の生態系などに影響が出ており、  
今後ますます悪化すると予想されています。

海や川へ流れているプラスチックごみ(海洋プラスチックごみ)を  
これ以上増やさないため、わたしたちにできることはなんでしょう。

この機会に考えてみてください。




流出されてきたごみのイメージ



# どのように 処分していますか

使用済み

## コンタクトレンズ

洗面所やトイレに  
流すのは **NG** 

使用済みコンタクトレンズは、「燃やすごみ」で出しましょう。



### プラスチックごみによる海洋汚染が広がっています

使い終わったコンタクトレンズを洗面所やトイレに流したことはありませんか。捨てられたコンタクトレンズは、下水道を流れながら細かく砕かれてマイクロプラスチックとなり、下水処理施設から川、そして海に流れ出ます。マイクロプラスチックを魚が食べると、食物連鎖で私たち人間の体内にも蓄積する可能性があります。

※マイクロプラスチックとは、5mm以下の微細なプラスチックごみです。



市川市 環境部 生活環境整備課

サイト名：一般社団法人日本コンタクトレンズ協会

[http://www.jcla.gr.jp/news/pdf/press\\_release\\_chousakekka\\_20190910.pdf](http://www.jcla.gr.jp/news/pdf/press_release_chousakekka_20190910.pdf)

～インターネット等での購入が進み、CLを購入するたびに必ず眼科を受診する人が大幅減～

9月10日はコンタクトレンズの日 定期的な目の健康診断を！

コンタクトレンズ使用者の適正使用へ向けた 消費者意識調査結果について

【調査概要】

『コンタクトレンズの正しい使用と更なる普及に向けた』消費者実態調査（第5回）

調査：一般社団法人日本コンタクトレンズ協会

調査実施日：2019年1月16日～1月23日

調査対象：15歳～59歳の女性（計2400人）

調査手法：インターネットによるアンケート調査

購買実態、眼科受診状況、廃棄方法などに関するアンケート調査をインターネットで実施

## CL関連ゴミをゴミ箱以外に捨てたことがあるか

(15～59歳女性:n=2,109)

	外につ 捨も てミ い箱 る以	あに時 捨々 てる ミ こ箱 と以 が外	捨い つて もい ゴミ 箱に
全 体	20.6%	7.9%	71.5%
15～19歳	26.6%	9.0%	64.4%
20～24歳	19.8%	7.8%	72.3%
25～29歳	17.8%	7.9%	74.2%
30～34歳	20.9%	7.8%	71.2%
35～39歳	19.9%	8.5%	71.6%
40歳以上	18.2%	5.8%	76.0%

(15～59歳女性:n=601)

ゴミ箱以外の廃棄場所	
自宅内 洗面所や流し	33.3%
自宅トイレ	15.1%
自宅内 その他の場所	17.0%
自宅以外 その他の場所	34.6%

(\* P<0.01)

